



Fw: 東北 Fan Meeting 特別編



関連
地域

岩手県

歴史と文化からデザインする 防災のまちづくり

災害文化と呼び水プロジェクト

テーマ 地域づくり・コミュニティ形成

#呼び水プロジェクト #災害文化 #まちづくり #井戸 #歴史

参加費
無料

定員
50名

主催
復興庁

オンライン
で開催!

日時

2020

12/9(水)

19:00~21:00

場所

オンライン開催

※インターネット会議サービス
「Zoomウェビナー」に接続

(後日、申込された方に接続先の情報をメールいたします。)

12/9

開催当日

12:00

締切

参加申込

下記URLよりお申し込みください。

https://form.run/@fm-zoom-1606953257/?utm_source=web&utm_medium=flier&utm_campaign=special



◆ Fw:東北 ホームページ

https://www.fwthoku.com/?utm_source=web&utm_medium=flier&utm_campaign=special



◆ フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/fwthoku/>



歴史と文化からデザインする防災のまちづくり

災害文化と呼び水プロジェクト

日時 2020.12.9(木) 19:00~21:00 (開場 18:30) 場所 オンライン開催



企画趣旨

私たちが暮らす日本の社会は、常に災害とともに暮らした歴史があり、現代の発展も、その中で幾度もしなやかに立ち上がってきた先人たちの経験の上に成り立っています。東日本大震災から10年が経とうとしている今、過去の歴史や文化から、災害と向き合えるまちの姿を考えていきます。

岩手県宮古市本町では、歴史的商家「東屋」を軸に、地域の暮らしと文化を新たに描き出す様々な活動が生まれ、現在では井戸の復活でコミュニティを作る「HIGASHI DE AERU 呼び水プロジェクト」が立ち上がっています。1つの井戸を復活させることで生まれるコミュニティや災害のまちづくりとは、どのようなストーリーを持つのでしょうか。

また、長い歴史の中で積み重ねられた災害の経験は、「災害文化」と呼ばれる様々な文化を生み出してきました。都市型社会の中で、自助・共助・公助のすみ分けが語られる一方、これまでの歴史が示してきた「近助」の概念を、地域の中でいかに見直すべきか。そして、資源でもあり災害ももたらしてきた水と、私たちはどのように向き合うべきか。

災害が暮らしの中にある前提で、私たちはいかにまちをつくり、暮らしを築いていくべきか。呼び水プロジェクトをケースとして、災害文化や水について理解を深めることで、私たちは、これからの地域で目指すべきまちづくりの視点を得ることができるはずです。

歴史や文化からはじめる自分たちのまちづくりのデザインと、そのあり方を、ともに考えましょう。

登壇者 ※敬称略

- ◆ 有坂 民夫 (HIGASHI DE AERU)
- ◆ 山崎 友子 (災害文化研究会)
- ◆ 山崎 憲治 (災害文化研究会)



プログラム(予定)

18:30	開場 (接続開始)
19:00	開会メッセージ／趣旨説明
19:10	ケーススタディ 「HIGASHI DE AERU 呼び水プロジェクト」説明 HIGASHI DE AERU 有坂 民夫氏
19:25	ミニ講義 「災害文化が培った『近助』とは」(仮) 災害文化研究会 山崎 友子氏
19:50	ミニ講義 「地域の水から考える暮らしと災害」(仮) 災害文化研究会 山崎 憲治氏
20:15	ワークショップ 井戸の復活からコミュニティを考える
20:50	クラウドファンディング紹介
20:55	閉会メッセージ

こんな方にオススメ！

- ・歴史のある地域資源の再生に関心のある方
- ・地域での防災のまちづくりに関心のある方
- ・歴史や文化から地域の災害や暮らしについて考えたい方
- ・自分が関わりのある地域でまちづくりやコミュニティづくりの活動を起こしたい方
- ・その他、本イベントに関心のある方 等

Fw:東北とは

「Fw:東北」は「進む」の意味を「フォワード」に置き換えた東北における共創によるプロジェクト全体の愛称です。被災地復興及び地域課題の解決に取り組んでいるNPO、企業、自治体等が、自らの取組を加速・発展させるため、共創の手法を通じて、新たなパートナーとのつながりを創出し、地域社会の課題解決を目指していきます。

Fw:東北 Fan Meetingとは

「Fw:東北 Fan Meeting」では、東北被災地における「新しい東北」の創造に向けた取組やそれらに取り組む人々にフォーカスし、認知向上や共創の輪の拡大及び東北の防災・減災、復興の経験値の共有を目指し、復興庁が主催する各種イベントを全国各地で多数展開(年間15回程度)いたします。